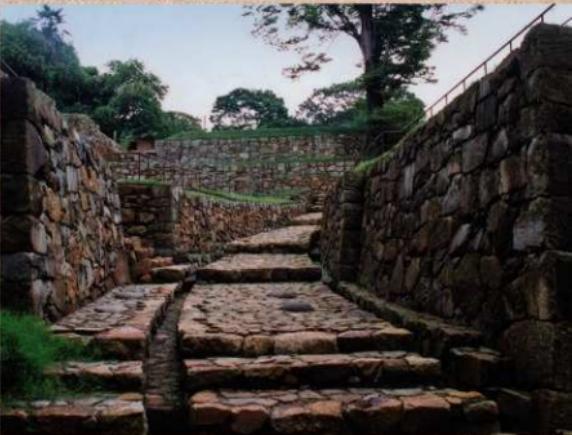


太田市の遺跡



太田市教育委員会

はじめに

太田市は、群馬県の東部の平野部に立地しています。南部には利根川が流れ、この南は埼玉県です。また、北部には渡良瀬川が流れ、この北は栃木県です。市の中心から東部よりには金山丘陵があり、この北部には八王子丘陵があります。二つの丘陵以外では、北から南に緩やかに傾斜する平野となっています。

市の北西部は、大間々扇状地の扇状地面で水が少ない地域であったため、遺跡はあまり分布していませんが、これ以外の多くの場所に遺跡が分布しています。特に、由良台地や木崎台地などの台地の縁辺には遺跡が濃密に分布しています。

太田市に人が住むようになったのは、今から約22,000年前の旧石器時代と考えられます。その後、縄文時代からムラが造られるようになります。古墳時代になると人口が急増し、市内に古墳が造られるようになり、天神山古墳をはじめとする大規模な前方後円墳が造られます。古代(飛鳥～平安時代)になると、東山道駅路という都と地方を結ぶ道が整備され、この周辺には郡家(古代の役所)が整備されます。中世(鎌倉～安土・桃山時代)になると、新田氏による広大な荘園の開発が行われ、室町時代には岩松氏により金山城の造営が行われます。

本書は、これらの太田市にある様々な遺跡をみなさんに知っていただくために作成しました。太田市に所在する遺跡のうち、縄文時代から中世の代表的な遺跡49箇所を掲載しております。主に平安時代に太田市が発掘調査を行なった遺跡を中心に掲載しましたが、これ以外の重要な遺跡についても掲載しております。

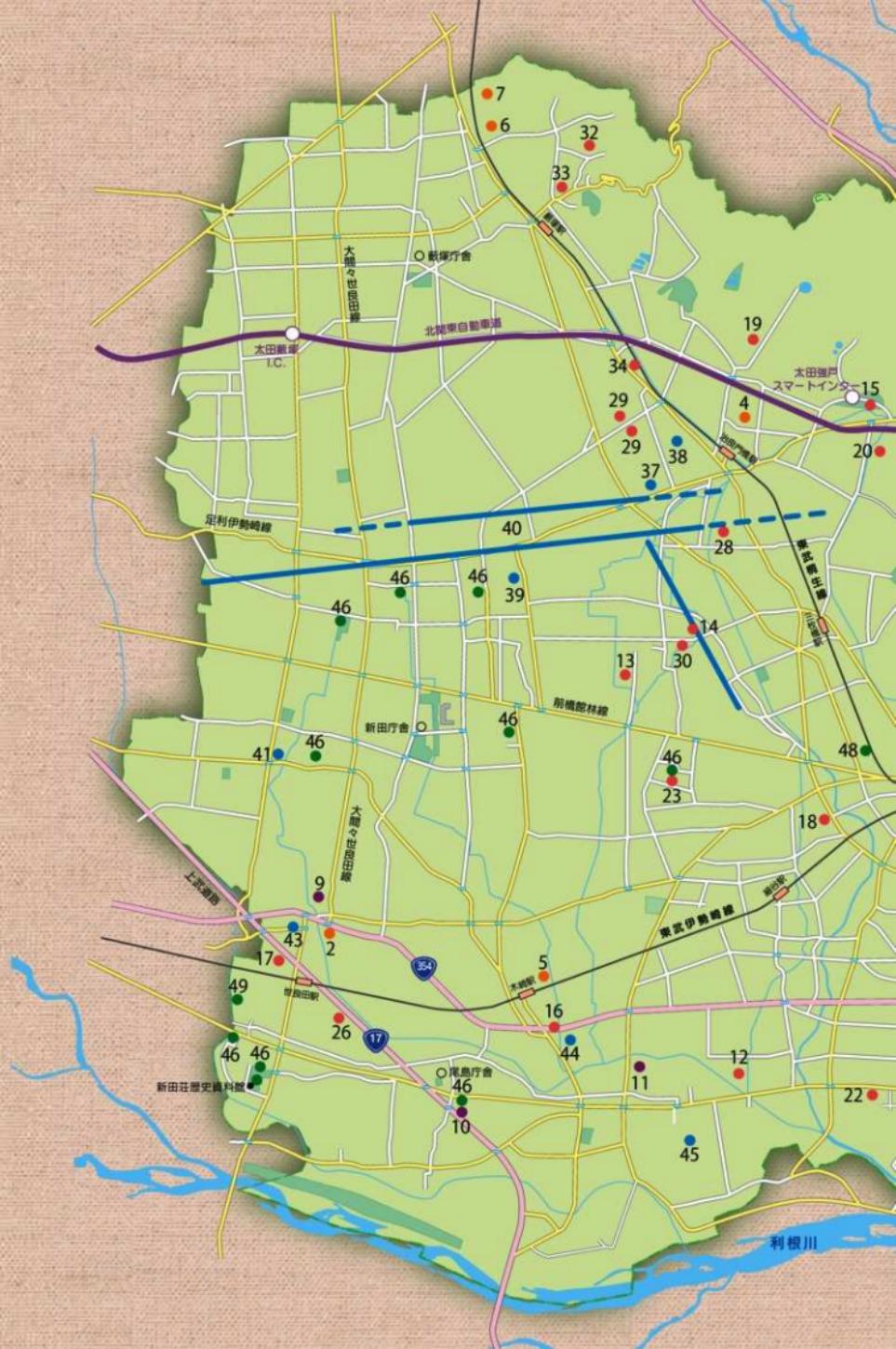
本書が、多くの人の目に触れ、太田市の遺跡について理解していただく機会になれば幸いです。

令和元年 太田市教育委員会

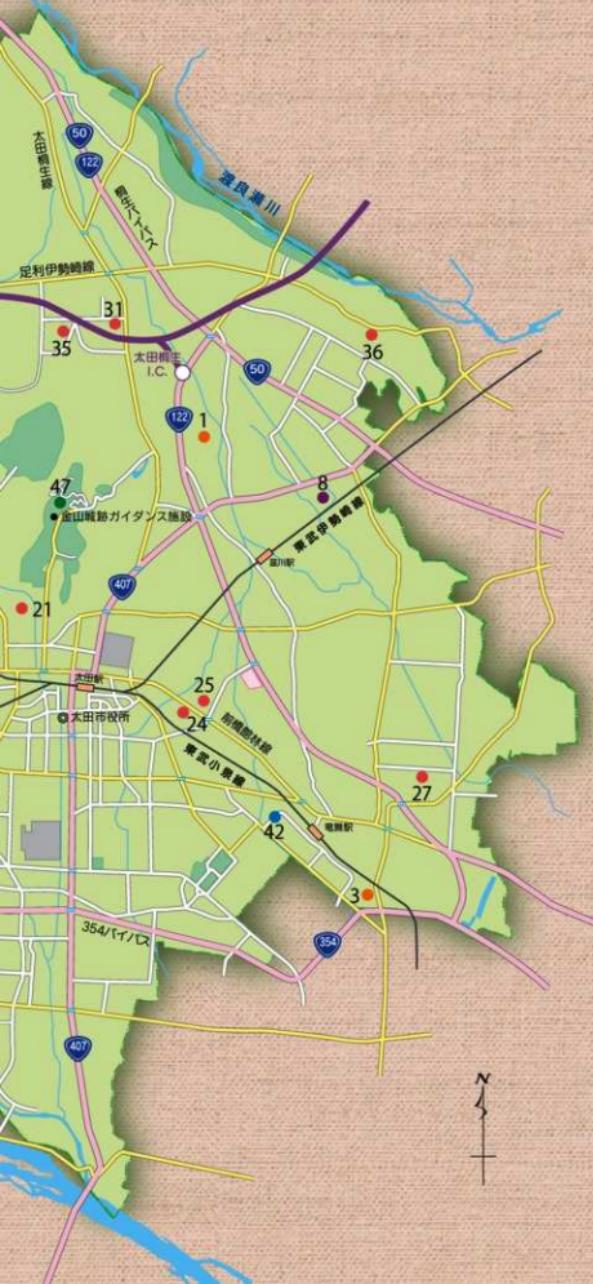
時代	年代
旧石器時代	
草創期	約13000年前
早期	
前期	
中期	
後期	
晩期	約2400年前
縄文時代	
前期	300年頃
中期	
後期	
弥生時代	
古墳時代	
飛鳥時代	600年頃
奈良時代	
平安時代	
鎌倉時代	1185年
南北朝時代	
室町時代	
安土桃山時代	
近世	
江戸時代	
近・現代	1868年

目 次

太田市の遺跡地図	2
縄文時代の遺跡	
下宿遺跡	4
中江田 A 遺跡	5
間之原遺跡	5
成塚住宅団地遺跡	6
下田遺跡	6
中原生品神社境内の敷石住居跡	7
石之塔遺跡	7
弥生時代の遺跡	
磯之宮遺跡	8
台遺跡	9
安養寺森ノ内遺跡	9
常木遺跡	9
古墳時代の遺跡	
石田川遺跡	10
中溝・深町遺跡	11
新野協屋遺跡群	11
上強戸古墳群	12
延享割遺跡	12
尾島工業団地遺跡	13
舞台A・D遺跡	13
駒形神社の埴輪窯跡	14
寺山古墳	14
八幡山古墳	15
朝子塚古墳	15
円福寺茶臼山古墳	16
天神山古墳	16
女体山古墳	17
世良田原訪下遺跡	17
塚廻り古墳群第4号古墳	18
鶴山古墳	18
ニツ山古墳1号墳・2号墳	19
オクマン山古墳	19
巖穴山古墳	20
北山古墳	20
西山古墳	20
西長岡横塚古墳群	21
今泉口八幡山古墳	21
稻荷山古墳	21
古代の遺跡	
上野国新田郡家跡	22
寺井廃寺	23
境ヶ谷戸遺跡	23
推定東山道駅路	24
前六供遺跡	24
川向・中西田遺跡	25
小角田下遺跡	25
長福寺遺跡	26
岩松千歳2遺跡	26
中世の遺跡	
新田荘遺跡	27
金山城跡	28
城ノ内遺跡	29
上新田遺跡	29



太田市の遺跡地図



縄文時代

- 1: 下宿遺跡
- 2: 中江田A遺跡
- 3: 間之原遺跡
- 4: 成塙住宅団地遺跡
- 5: 下田遺跡
- 6: 中原敷石住居跡
- 7: 石之塔遺跡

弥生時代

- 8: 磐之宮遺跡
- 9: 台遺跡
- 10: 安養寺森ノ内遺跡
- 11: 常木遺跡

古墳時代

- 12: 石田川遺跡
- 13: 中溝・深町遺跡
- 14: 新野脇屋遺跡群
- 15: 上強戸古墳群
- 16: 延享割遺跡
- 17: 尾島工業団地遺跡
- 18: 舞台A・D遺跡
- 19: 駒形神社の埴輪窯跡
- 20: 寺山古墳
- 21: 八幡山古墳
- 22: 朝子塚古墳
- 23: 円福寺茶臼山古墳
- 24: 天神山古墳
- 25: 女体山古墳
- 26: 世良田開訪下遺跡
- 27: 墓廻り古墳群第4号古墳
- 28: 鶴山古墳
- 29: ニツ山古墳 1号墳・2号墳
- 30: オクマン山古墳
- 31: 嵐穴山古墳
- 32: 北山古墳
- 33: 西山古墳
- 34: 西長岡横塚古墳群
- 35: 今泉口八幡山古墳
- 36: 稲荷山古墳

古代

- 37: 上野国新田郡家跡
- 38: 寺井虎寺
- 39: 境ヶ谷戸遺跡
- 40: 推定東山道駅跡
- 41: 前六供遺跡
- 42: 川向・中西田遺跡
- 43: 小角田下遺跡
- 44: 長福寺遺跡
- 45: 岩松千歳2遺跡

中世

- 46: 新田莊遺跡
- 47: 金山城跡
- 48: 城ノ内遺跡
- 49: 上新田遺跡

縄文時代の遺跡



縄文時代の人々は、狩猟や採集によって生計を立てていました。縄目の文様が付いた土器を特徴とすることから、縄文時代と言われています。

太田市では、台地の縁辺や湧水の近くに小さなムラがつくられていきました。発見された遺跡も少なく、人口が急増したと考えられる縄文時代中期においても、赤城山麓のような大規模な集落は発見されていません。しかし、少ない遺跡の中でも重要な遺跡がいくつか発見されています。

下宿遺跡（草創期）は、最も古い時期の集落の様子がわかる重要な遺跡です。特にここから出土した爪形文土器（国重要文化財）は残りの部分が多く、日本最古の土器文化を知るうえで貴重な資料です。

また、下田遺跡（中・後期）では、この時代の河川跡が見つかり、その中から大量の木製品が出土し、当時の生活の様子を解明するうえで極めて重要な資料となっています。

太田市の最北端にある石之塔遺跡（後・晩期）では、多くの土偶、土版、岩版などとともに 100 点余りの土製耳飾りが出土しています。

下宿遺跡

■ 時代 縄文時代～平安時代

■ 位置 金井町

■ 調査期間 昭和 59～62 年

■ 概要

下宿遺跡は、渡良瀬川扇状地の南東縁辺に立地しています。この遺跡は、ほ場整備及び工業団地造成事業の事前調査として発掘が行われ、縄文時代草創期の土坑 9 基や奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡などが発見されました。

特に縄文時代草創期の土器は表面に爪を押しつけた文様（爪形文）を施す特徴を持っています。下宿遺跡の土器はこの時期の土器としては珍しくほぼ完全な形をしているものがあることから、復元された深鉢形土器 6 点、その破片 30 点、石器 61 点のほか、石核・剥片 30 点が国の重要文化財に指定されています。



爪形文土器が出土した土坑



爪形文土器

中江田 A 遺跡

- 時代 縄文時代草創期～後期
- 位置 新田中江田町
- 調査期間 昭和 59・62 年、平成 4 年
- 概要

中江田 A 遺跡は、木崎台地の西側に立地しています。これまで 4 度の発掘が行われ、縄文時代草創期から早期の土器の破片が多量に出土しています。縄文時代後期の住居跡も 1 軒発見されています。

ほぼ完全な形に復元できる縄文時代早期の土器や重さが 580 g もある黒曜石の石核（石器を作った残りの原石）などの遺物が注目されます。また、縄文時代後期の完全な形の注口土器も出土しています。



早期の土器

間之原遺跡

- 時代 縄文時代～平安時代
- 位置 龍舞町
- 調査期間 昭和 55 年～昭和 61 年
- 概要

間之原遺跡は邑楽台地の北端部に立地する遺跡で、土地区画整理事業に伴い、4 次にわたる発掘が行われました。その後も、個人住宅等の開発に伴う事前調査として発掘が行われ、縄文時代前期～後期、古墳時代前・後期、平安時代の集落、古墳時代前期の方形周溝墓、後期の古墳などが調査されました。

なかでも縄文時代前期については集落全域が調査された数少ない遺跡で、集落中央部に径約 50 m の広場を持ち、西に開口部を持つ馬蹄形の集落を形成していました。縄文時代前期の集落構造を解き明かす貴重な資料を数多く得ることができました。



前期の土器

■ 時代 縄文時代～平安時代

■ 位置 成塚町

■ 調査期間 昭和 61・62 年

■ 概要

成塚住宅団地遺跡は、八王子丘陵西側の台地上に立地しています。住宅団地の造成に伴って発掘調査が実施され、縄文時代の遺構としては、中期の竪穴住居跡 11 軒が発見されました。太田市内でもこの時期のムラが発掘されることとは稀で、当時の様子を知るうえで貴重な発見となりました。住居跡のほぼ中央には、石で囲われた炉が作られ、ここで煮炊きが行われたことがわかっています。

このほかに、古墳時代から平安時代の住居跡約 1,400 軒なども発掘され、古墳時代中期の豪族居館も発見されています。



住居跡



住居跡内の炉

下田遺跡

■ 時代 縄文時代～古墳時代

■ 位置 新田木崎町

■ 調査期間 平成 2 年

■ 概要

下田遺跡は木崎台地東側の沖積地に立地します。工場建設の事前調査として発掘が行われ、縄文時代中期から後期の河川跡から、縄文時代の漆器やかご、石斧の柄などの木製品が発見されました。数千年前の木製品は普通腐ってしまい、残ることはありませんが、水の中で空気に触れずにいたため、当時の状態のまま残されていました。これらの漆器や木製品は群馬県の重要な文化財に指定されています。

また、古墳時代の河川跡からは当時使われていた馬の鞍やはしご、鋤、船などの木製品が発見されています。



河川跡



河川跡から出土した漆器

中原生品神社境内の敷石住居跡

■ 時代 縄文時代中期

■ 位置 藪塚町

■ 調査期間 昭和 60 年

■ 概要

中原生品神社境内の敷石住居跡は、八王子丘陵西側の微高地上に立地します。神社の東側を流れるしななし川の改修工事の事前調査として発掘が行われ、この住居跡が発見されました。

住居跡は床面に六角形に石が敷き詰められ、東西の最大幅が約 2.5m、南北の最大幅が約 3.3m で中央部には 5 つの石で囲われた炉が確認されました。出土した土器片から約 3000 年前につくられたものと考えられています。

出土状況も良好で、東毛地域では珍しいものであったことから保存が決まり、出土した地点から南に 34m 離れた現在地に移動し、復元整備をしました。その後、太田市の重要文化財に指定されています。



敷石の状況

石之塔遺跡

■ 時代 縄文時代後・晩期～平安時代

■ 位置 藪塚町

■ 調査期間 昭和 61 年

■ 概要

石之塔遺跡は八王子丘陵と大間々扇状地に挟まれた微高地上に立地します。縄文時代中心の遺跡であり、土地改良事業の事前調査として発掘が行われ、配石遺構、敷石状遺構、炉状遺構などの住居の一部と考えられる遺構が発見されました。

遺物では、土製耳飾り、石製玉類、岩版、土版、石棒、土偶などの呪術や儀礼で使われたと考えられる特徴的なもののほか、石鏡、石錘、土錘、石斧、石錐などが出土しています。

また、この遺跡内の極めて狭い範囲から高温で焼かれたイノシシの下あごの骨が出土しています。出土遺物はその重要性から太田市の重要文化財に指定されています。



出土した土製耳飾り



出土した土偶

弥生時代の遺跡



弥生時代の人々は稻作によって生計を立てていました。

太田市では、弥生時代の中期後半になって、沖積低地に面した微高地に集落が進出するようになります。これは小谷地形を水稻耕作地として利用したことによるものと考えられています。

このような場所に立地する遺跡として磯之宮遺跡などが知られていますが、遺跡の数は極めて少なく、継続性もありません。太田市の平野部には広大な低湿地が広がっていますが、当時の土木技術では十分な水田開発が進まなかったものと考えられ、典型的な弥生時代の集落遺跡は発見されていません。

一方、丘陵部にも集落が形成されています。後期には平野部の遺跡よりも丘陵部に立地する遺跡が優勢で、丘陵下の小河川のある谷地形を利用した水稻耕作が行われていたようです。

太田市北部の八王子丘陵では、古墳時代前期までこのような遺跡立地が見られます。

磯之宮遺跡

■ 時代 弥生時代～平安時代

■ 位置 台之郷町

■ 調査期間 昭和 60・61 年

■ 概要

磯之宮遺跡は、にらがね さがん まいばつだいち 萩川左岸の埋没台地に立地します。土地改良事業の事前調査として発掘が行われ、弥生時代中期の住居跡 1 軒、古墳時代前期の住居跡 13 軒、方形周溝墓 2 基、平安時代の住居跡 5 軒などが発見されました。

古墳時代中心の遺跡ではありますが、太田市ではあまり発見されない弥生時代中期の住居跡が発見された遺跡です。住居跡からはこの時代の壺形土器が出土しています。



壺形土器出土状況

台遺跡

■ 時代 縄文時代～中世

■ 位置 新田高尾町

■ 調査期間 昭和 61・62 年

■ 概要

台遺跡は木崎台地の西端に立地しています。縄文時代から平安時代の 150 軒以上の住居跡などが発見されました。特に太田市では少ない弥生時代後期の住居跡 2 軒が発見されたことは注目されます。この住居跡は、長方形の掘り込みを持ち、中央付近に 4 本の柱穴が掘られていました。



住居跡

安養寺森ノ内遺跡

■ 時代 弥生時代

■ 位置 安養寺町

■ 調査期間 平成 8 年

■ 概要

安養寺森ノ内遺跡は、利根川の自然堤防上に立地しています。弥生時代の遺構としては、竪穴住居跡 1 軒、方形周溝墓 1 基、壺棺墓 3 基、土坑 4 基などが発見されています。弥生時代の住居跡と墓が同じ場所で発見された遺跡は他にはなく、貴重な発見です。方形周溝墓の中央には遺体を埋葬した主体部があり、ここから人骨も出土しています。



壺棺墓

常木遺跡

■ 時代 弥生時代～平安時代

■ 位置 岩松町

■ 調査期間 昭和 57 年～58 年

■ 概要

常木遺跡は石田川右岸の低台地上に立地しています。町営住宅の建設に伴う事前調査として発掘が行われ、弥生時代の土坑 1 基が発見されました。土坑は直径約 1.8 m、深さ 0.8 m の大きさで、中から、表面に縄目の文様が付けられた弥生土器の破片が多く出土しました。当時の矢じり 3 点も出土しました。



土坑

古墳時代の遺跡



4世紀ごろの太田市では、伊勢湾を中心とした東海地方の土器とよく似た石田川式土器（北関東西部の標識土器）を使用するムラが急速に形成されるようになります。遺跡の数も弥生時代以前に比べると極端に増加します。

遺跡の立地する地形は、扇状地扇端に広がる水田耕作に適した肥沃な沖積地内の微高地が選ばれています。

こうしたムラは、強大な力を持った首長により次第に統合されるようになります。大きな権力の象徴として古墳が造されました。

前期の古墳は眺めの良い丘陵や台地の縁辺に造られました。寺山古墳（前方後方墳）、八幡山古墳・朝子塚古墳（前方後円墳）などがあげられます。中期には、円福寺茶臼山古墳（前方後円墳）などに続き、女体山古墳（帆立貝形）や東日本最大の規模を持つ天神山古墳（前方後円墳）が出現します。

後期になると天神山古墳に代表されるような巨大な古墳は造られなくなり、平地をはじめとして、丘陵や台地上に古墳が密集して造られるようになります。

2世紀になると巖穴山古墳（方墳）や北山古墳（円墳）が造られます。が、これ以降太田市域では古墳はほとんど造られなくなります。

石田川遺跡

■ 時代 古墳時代前期

■ 位置 米沢町

■ 調査期間 昭和 27 年

概要

石田川遺跡は、太田市南部を流れる石田川の左岸にある微高地に立地しています。昭和 22 年・24 年のカスリーン台風・キティ台風の被害により、その後の治水対策として昭和 27 年に石田川と米沢川の堤防構築工事が行われました。そのとき、土取り現場から多数の土器が出土し、群馬大学の尾崎喜左雄教授の指導のもと、当時今井旅館経営者であった今井新次氏と群馬大学の学生であった松島榮治氏によって発掘が行われました。このときの調査で出土した土器は、「石田川式土器」として型式設定されました。これらの土器は東海地方の古墳時代前期の標式土器に位置付けられています。



出土した土器

中溝・深町遺跡

■ 時代 古墳時代前期～後期

■ 位置 新田小金井町

■ 調査期間 平成6年～平成8年

■ 概要

中溝・深町遺跡は、古墳時代前期を中心とした遺跡で、工業団地造成事業の事前調査として、隣接する二つの遺跡（槍花遺跡、一本杉II遺跡）とともに発掘が行われました。

調査の結果、古墳時代前期にこの地を治めていた豪族の生活の一端をうかがわせる様々な建物跡や遺物がまとまって見つかりました。中でも、古墳時代のまつりに関わる施設などの貴重な遺構がまとまって確認され、中心部約10,000m²が、群馬県の史跡に指定されています。指定地は現在「小金井史跡公園」として整備され、一般に公開されています。



遺跡全景（上空南から）

新野脇屋遺跡群

■ 時代 繩文時代～中世

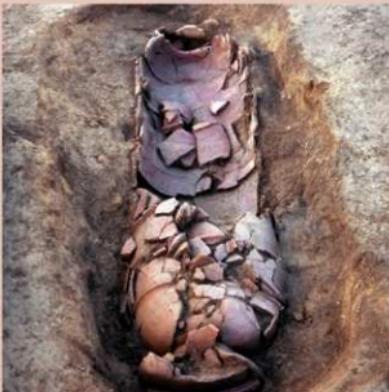
■ 位置 新野町、脇屋町、城西町

■ 調査期間 平成12年～平成18年

■ 概要

新野脇屋遺跡群は、堂原遺跡、脇屋古墳群、釣堂遺跡、脇屋中原遺跡からなる遺跡群で、由良台地の北端部に立地しています。遺跡群は、住宅団地造成事業に伴う事前調査として発掘が行われ、縄文時代から中世にわたる様々な遺構・遺物が発見されました。

古墳時代の遺構としては、住居跡の他、古墳17基、方形周溝墓15基と多くの墳墓が確認されました。これらの中でも、3つの大型の円筒埴輪を転用して作られた棺（埴輪棺）は長さが約2mもありました。



埴輪棺出土状況

上強戸古墳群

■ 時代 古墳時代前期～後期

■ 位置 上強戸町

■ 調査期間 平成17年～18年

■ 概要

上強戸古墳群は、八王子丘陵南東端の尾根上に立地しています。北部運動公園の造成に伴う事前調査で発掘が行われ、古墳時代前・中期の集落と前期の方形周溝墓、後期の円墳が発見されています。

前・中期では尾根の高いところに墓域を設け、集落は尾根の縁辺部に造られていたことがわかりました。後期になると尾根上に円墳が造られます。この時期になると、人々は高台ではなく、水田耕作のしやすい丘陵の麓に集落を形成するようになったと考えられます。



遺跡全貌（上空北東から）

延享割遺跡

■ 時代 古墳時代中期～平安時代

■ 位置 泉町

■ 調査期間 平成4年～7年

■ 概要

延享割遺跡は、木崎台地南東端部に立地します。国道354号バイパス建設に伴う事前調査で発掘が行われました。

調査の結果、古墳時代中期から後期の竪穴住居跡が27軒、古墳1基などが発見されました。

古墳時代中期の住居跡からは、朝鮮半島で作られた可能性がある韓式系土器の蓋1点が出土しています。この時期の韓式系土器が出土することは珍しく、貴重な資料です。



住居跡

お り ま こ う じ よ う だ ん ち い せき 尾島工業団地遺跡

■ 時代 繩文時代～中世

■ 位置 世良田町、小角田町

■ 調査期間 昭和 58 年～62 年

■ 概要

尾島工業団地遺跡は、^{うなが}早川と石田川の間に位置する沖積地を挟んだ複数の台地上に立地する 8 遺跡から構成されています。工業団地の造成に伴う事前調査で発掘が行われ、縄文時代から中世までの多時期にわたる遺構・遺物が発見されています。

中心的なものは古墳時代で、住居跡が 683 軒、古墳 3 基、豪族居館跡 1 力所が発見されました。

豪族居館跡は、南側の谷、北東側の旧早川、北西側の湿地という自然地形を利用して、台地を分断するように 2 本の溝を掘り、平面形は五角形をしています。溝が 1 回掘り直されていることが確認されています。居館跡の時期は、溝から出土した遺物から、5 世紀後半から 6 世紀初頭と考えられます。



遺跡全景（上空真上から）

舞台 A・D 遺跡

■ 時代 古墳時代

■ 位置 西本町

■ 調査期間 昭和 55 年、57 年

■ 概要

舞台 A・D 遺跡は県立太田高校の西約 500 m に所在します。この遺跡は土地区画整理事業に伴う事前調査で発掘が行われ、古墳時代後期の集落跡が発見されました。

舞台 A 遺跡では、貯蔵穴の周辺に石が敷き詰められた住居跡が発見されました。

また、舞台 D 遺跡では住居跡の床面下から発見された土坑の中から大量の炭化米^{さんかまい}が出土しました。その量はおよそ 3 リットルにもおよびました。なぜ、このように大量の炭化米が埋められていたのか、原因はわかっていません。



貯蔵穴のまわりに敷石のある住居跡



炭化米出土状況

駒形神社の埴輪窯跡

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 北金井町

■ 調査期間 昭和 40 年、62 年

■ 概要

八王子山丘陵南麓の一支丘先端部に所在する駒形神社を中心に、丘陵の南～南東斜面に造られた埴輪窯跡です。

昭和 62 年に集会所建設に伴う事前調査で発掘が行われ、埴輪の集積場が発見されました。南北 4m × 東西 8m の狭い範囲に約 150 個の円筒埴輪と形象埴輪が種類ごとに区域を分けて、将棋倒しに倒れた状態で発見されました。形象埴輪は家・櫛・轆・馬・人物が出土しています。6世紀末に造られた埴輪と推定されます。市史跡に指定されています。



埴輪出土状況

寺山古墳

■ 時代 古墳時代前期

■ 位置 強戸町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

金山丘陵の北西端に張り出した支丘陵の頂部に立地した全長約 60m の前方後方墳です。

発掘調査は行われていないので、詳細は明らかではありませんが、太田市内で最も古い古墳と考えられ、また、群馬県を代表する出現期古墳と考えられています。

墳丘の保存状態が良く、太田市内において築造当初の形状をとどめている唯一の前方後方墳です。古墳時代の初期に金山西方域の地域をまとめた首長の墓と推定され、市史跡に指定されています。



遠景（南西から）

八幡山古墳

■ 時代 古墳時代前期

■ 位置 大島町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

金山丘陵の南西に位置する八幡山という独立丘陵の頂上に立地した全長約84mの前方後円墳です。墳丘表面には葺石が見られます。

埋葬施設は、後円部にある社殿の西側に割石が詰められた部分があることから、そこに竪穴式石室があるものと推定されます。社殿前面の沓石に使用されている板状の石は、石棺の部材と考えられています。大刀と鏡が出土したと伝えられていますが、現存していません。造られた時期は4世紀末と推定され、典型的な初期古墳として市史跡に指定されています。



遠景（南東から）

朝子塚古墳

■ 時代 古墳時代前期

■ 位置 牛沢町

■ 調査期間 昭和31年、平成11年

■ 概要

高林台地の南西端に立地している全長約123.5mの前方後円墳です。後円部が高く前方部が低い、初期の前方後円墳の特徴をそなえています。墳丘表面は葺石がめぐらされています。周堀をもち、前方部側にはその名残が見られます。

家形埴輪・盾形埴輪・壺形埴輪などの形象埴輪の他、円筒埴輪が出土しています。これらの埴輪は、古墳の裾と墳頂のまわりに並び置かれ、さらに後円部墳頂には方形に区画するように埴輪列が置かれていたと考えられます。

数少ない典型的な前期古墳（4世紀末）として県史跡に指定されています。



全景（上空南東から）

円福寺茶臼山古墳

■ 時代 古墳時代中期（5世紀初頭）

■ 位置 別所町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

由良台地の西縁に立地している全長約167mの前方後円墳です。

墳頂部や墳丘裾部は、後世の円福寺や十二所神社の建物を造ったときに削られて原型が損なわれていますが、市内では天神山古墳に次ぐ第2位、県内でも第3位の規模を誇っています。

前方部が2段、後円部が3段に造られており、平坦部の一部に円筒埴輪が並べられていたことが確認されていますが、埋葬施設や副葬品等は明らかではありません。

新田荘遺跡の円福寺境内・十二所神社境内として、国史跡に指定されています。



全景（上空南東から）

天神山古墳

■ 時代 古墳時代中期（5世紀前葉）

■ 位置 内ヶ島町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

天神山古墳は、東武伊勢崎線太田駅の東方約1.2kmに所在する全長約210mの前方後円墳で、東日本では最大、全国でも26位の規模を誇ります。墳丘表面には葺石が巡らされています。埋葬施設はすでに盗掘され、長持形石棺の一部が転落していました。墳丘の周りには二重の周堀（内堀・外堀）が巡り、北約345m、東西約325mにわたり墓域が形成されています。

この古墳からはこれまでに家形埴輪や水鳥形埴輪（頭部）などが発見されているほか、後円部の頂上には器財埴輪が、中堤帯には円筒埴輪がそれぞれ置かれていたと考えられます。古墳に埋葬された人は畿内大和政権と強いつながりを持った毛野國の大首長と考えられています。国史跡に指定されています。



全景（上空南西から）

女体山古墳

■ 時代 古墳時代中期

■ 位置 内ヶ島町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

女体山古墳は天神山古墳の東側に造られた全長約106mの帆立貝形古墳（または造り出し付き円墳）です。墳丘表面には葺石がめぐらされており、円筒埴輪が巡っていたと考えられます。

埋葬施設は竪穴系と推定され、まわりには周堀が巡っています。

天神山古墳と女体山古墳は、ほぼ同じ時期に造られていることや、同じ方向を向いていることなどから、2つの古墳に埋葬された人たちの間には密接な関係があったと考えられています。国史跡に指定されています。



全景（上空東から、後方は天神山古墳）

世良田諏訪下遺跡

■ 時代 古墳時代中期～近世

■ 位置 世良田町

■ 調査期間 平成3年～平成5年

■ 概要

世良田諏訪下遺跡は古墳時代から中・近世に至る遺跡で、工業団地造成事業の事前調査として発掘が行われました。調査の結果、古墳時代の住居跡、墳墓、平安時代の住居跡、館跡、水田跡、畠跡、中世～近世の土坑、溝、井戸など多岐にわたる遺構が発見されています。古墳は73基も確認され、そのうち11基には墳丘が残っていました。墳丘が残っていた古墳のうち3基からは埴輪が発見され、さらにそのうちの2基は人物埴輪や馬の埴輪などが並べて置かれていました。これらの埴輪は古墳時代の祭祀の様子を表現している貴重なもので、県指定重要文化財に指定されています。



形象埴輪出土状況

塚廻り古墳群第4号古墳

■ 時代 古墳時代中・後期

■ 位置 龍舞町

■ 調査期間 昭和 52 年

■ 概要

塚廻り古墳群第4号古墳は、太田市東部のほ場整備事業に先立って行われた調査により、偶然水田の下から発見されました。塚廻り古墳群は、6世紀前半から中ごろにかけてこの台地上にあった群集墳です。調査の結果、合計7基の帆立貝形古墳および円墳が確認され、多数の埴輪が出土しました。特にこの第4号古墳は、全長22.5mの帆立貝形古墳で、ここから出土した人物埴輪は当時の祭りの様子を示す埴輪として国重要文化財に指定されています。

また、古墳は県史跡に指定されています。



全景（西から）

鶴山古墳

■ 時代 古墳時代中期

■ 位置 烏山上町

■ 調査期間 昭和 23 年

■ 概要

鶴山古墳は、東武桐生線治良門橋駅の南約1kmに所在しています。全長約95mの前方後円墳で葺石や埴輪の存在は確認されておりません。埋葬部は竪穴式石室で、遺体は組合式の木棺に安置されていたと考えられます。副葬品は大刀、剣、鎌や斧、槍鉤といった鉄製の武器や農工具、石製模造品のほか、甲冑も出土しています。

天神山古墳に続く5世紀後半に造られた古墳と考えられますが、これまでに埴輪が出土していない点で、この時期の古墳としては珍しい例です。県史跡に指定されています。



全景（上空南東から）

二ツ山古墳1号墳・2号墳

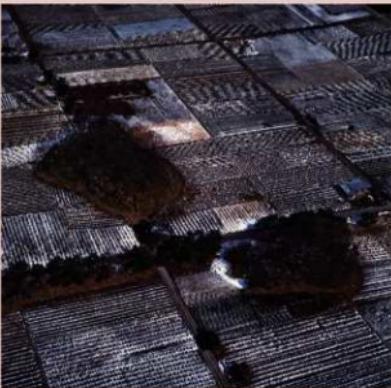
■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 新田良町

■ 調査期間 明治 21 年、昭和 23 年・56 年

■ 概要

二ツ山古墳 1 号墳・2 号墳は東武桐生線治良門橋駅の北西約 1.3km に所在する 2 基の古墳です。1 号墳は全長約 74m で周堀をもち、墳丘斜面に葺石を持つ前方後円墳です。墳丘は 2 段に造られており、裾に 2 列の円筒埴輪列がめぐり、形象埴輪が並べられていました。主体部は横穴式石室で、石室の入口に円筒埴輪を四角く並べた空間が見られます。副葬品は、大刀、馬具、武具、金環などが出土しています。2 号墳は全長約 45m で、周堀をもつ前方後円墳で、主体部は横穴式石室です。1 号墳の後に造られた古墳と考えられます。1・2 号墳ともに県史跡に指定されています。



全景（上空南から）

オクマン山古墳

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 臨屋町

■ 調査期間 昭和 25 年・45 年・48 年

■ 概要

オクマン山古墳は、由良台地の北端部近くの台地上に所在していました。西方約 200m には正法寺があり、

昭和 13 年に刊行された「上毛古墳総覧」には宝泉村「第 1 号オクマン山」と記載され、臨屋古墳群の中核をなす古墳と考えられます。

昭和 25 年に木暮仁一氏、昭和 45 年に太田市教育委員会、昭和 48 年に群馬県教育委員会、平成 12 年に太田市教育委員会が発掘調査を実施していますが、現在は開発により消滅し、その姿を見るすることはできません。

昭和 25 年の調査で副葬品のほか、鷹匠埴輪（市重文）、馬形埴輪（市重文）や鉢を担ぐ農夫などの人物埴輪が出土しています。



鷹匠埴輪

巖穴山古墳

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 東今泉町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

巖穴山古墳は金山丘陵の北東に所在する一辺36.5mの方墳です。周堀が巡り、玄室と羨道の間に前室がある横穴式石室を持っています。遺物として刀装具・耳環・銅製品・須恵器・土師器などが出土しており、古墳時代終末期の7世紀中頃に造られたと考えられます。

この古墳の周辺の金山丘陵・八王子丘陵には、須恵器・瓦・鉄の生産跡が分布しており、埋葬された人はこれらの生産に携わった人々を統率した人物であったと考えられます。市史跡に指定されています。



全景（南から）

北山古墳

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 藪塚町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

北山古墳は、八王子丘陵の西側にある尾根上に立地している、直径約22mの円墳です。葺石の有無は明らかではありません。また、埴輪が出土していないため、埴輪が配置されていなかったと考えられます。埋葬部は凝灰岩の割石を使用した横穴式石室ですが、副葬品はすでに盗掘されており、詳細は明らかではありません。県史跡に指定されています。



全景（南東から）

西山古墳

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 藪塚町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

西山古墳は、八王子丘陵の西側にある、北東から西南方向へ延びる尾根上に立地する、全長約34mの前方後円墳です。葺石の有無は明らかではありませんが、墳丘の裾と前方部の先端に円筒埴輪列が確認されています。埋葬施設は横穴式石室ですが、副葬品はすでに盗掘されており、詳細は明らかではありません。県史跡に指定されています。



全景（南西から）

西長岡横塚古墳群

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 西長岡町

■ 調査期間 昭和 60 年

■ 概要

西長岡横塚古墳群は大間々扇状地東端に立地する古墳群です。土地改良事業に伴う事前調査で発掘が行われました。調査された 3 基の古墳は墳丘や石室が露出した状態がありました。

特に第 28 号墳は、直径約 19 m の 7 世紀末の円墳で、2 つの埋葬施設が確認されました。このうち第 2 主体部は竪穴式石槨という埋葬部で、家形石棺が安置され、中からは装身具である水晶やガラスの玉類などが出土しました。



石棺出土状況

今泉口八幡山古墳

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 東今泉町

■ 調査期間 平成 6・7 年

■ 概要

今泉口八幡山古墳は、金山丘陵の北に立地する、全長約 60 m の前方後円墳です。急傾斜地崩壊対策事業の事前調査として発掘が行われ、後円部に家形石棺をもつ横穴式石室があることがわかりました。石棺の中を小型カメラで撮影したところ、金銅製の耳環が副葬されていたことがわかりました。そのほかにも、石棺の蓋の上から須恵器高环と腰、石棺の手前の埋め土から直刀、短刀、鎧。石室の羨道からは筒型銅製品やコイル状金銅製品などが出土しました。6 世紀末から 7 世紀初頭に造られたと考えられています。



石棺出土状況

稻荷山古墳

■ 時代 古墳時代後期

■ 位置 市場町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

太田市の北東辺、かつての渡良瀬川の旧流路である矢場川右岸に立地している直径約 32 m の円墳です。墳丘には石が葺かれ、円筒埴輪のほか馬形の形象埴輪が並べられていました。西側には周堀の跡が残されています。

6 世紀中頃に造られたと推定されます。市史跡に指定されています。



全景（南東から）

古代の遺跡



古代（飛鳥時代～平安時代）、日本は五畿（大和・山城・摂津・河内・和泉）と七道（東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道）に分けられます。群馬県は東山道に所属し、上野国（上毛野国）と呼ばれました。都から上野国へは、東山道駿路という大きな道で結ばれていました。太田市内の東山道駿路は、発掘調査によって、北部、新田大町から只上町を東西方向に通ることがわかっています。また、城西町の新野脇屋遺跡群の調査では、武藏国へ向かう武藏路が発掘調査されています。

太田市域は、金山を境にして、西が新田郡、東が山田郡に分けられ、南東部は邑楽郡に含まれていました。北部の天良町とこの周辺には新田郡の役所である新田郡家が置かれたことがわかっています。新田郡家の中心施設である郡庁は、一辺が 90 m という国内でも最大規模の郡庁です。この周辺では、寺井廃寺や境ヶ谷戸遺跡などの古代の重要な遺跡が発見されています。

上野国新田郡家跡

■ 時代 飛鳥時代～平安時代

■ 位置 天良町・寺井町・新田小金井町

■ 調査期間 平成 19 年～ 26 年度

概要

上野国新田郡家跡は、古代（飛鳥～平安時代）の新田郡を治めていた「郡家」という役所（現在の市役所に相当）の跡になります。平成 19 年に宅地の分譲の事前調査として発掘が行われました。その結果、郡家の中心施設である郡庁（儀式や政務を行うところ）の跡が確認されました。規模は一辺が 90 m という全国でも最も大きいものでした。このため、現状で保存することが決まり、平成 20 年に「上野国新田郡庁跡」という名称で国史跡に指定されることとなりました。その後、平成 20 年から周辺部の調査が進み、郡庁跡の東、西、北側で、「正倉」（税として納めた米を保管する倉庫）や、郡府・正倉を取り囲む溝の跡が次々と確認されました。これらが確認された場所は平成 27 年に追加指定され、「上野国新田郡家跡」と名称が変更されました。指定面積は 27783.56m² です。



郡庁跡全貌



正倉（高床式の倉庫）跡

寺井廃寺

■ 時代 飛鳥～奈良時代

■ 位置 寺井町

■ 調査期間 未調査

■ 概要

寺井廃寺は、上野国新田郡家跡の東約200mにあります。古代の瓦が多量に出土することから、群馬県内でも最も古い7世紀後半に造られた寺で、新田郡家に付属した寺院と考えられています。

本格的な発掘調査は行なわれていませんが、工事の際に軒丸瓦が出土し、この内、最も古い軒丸瓦は奈良県の川原寺に似た文様を持っています。軒丸瓦3点は、昭和51年に太田市重要文化財に指定されています。



軒丸瓦（左が川原寺系の瓦）

境ヶ谷戸遺跡

■ 時代 奈良～平安時代

■ 位置 新田村田町

■ 調査期間 平成3年

■ 概要

境ヶ谷戸遺跡は、大間々扇状地の先端部に立地しています。送電線の鉄塔工事に伴う事前調査で発掘が行われました。奈良時代の住居跡14軒、掘立柱建物4棟などが発見され、この時代としては非常に大きな住居跡から、唐三彩陶枕の破片2点が出土しました。

唐三彩は遣唐使が唐（古代の中国）から持ち帰った焼き物で、緑・茶・白の釉薬で鮮やかに彩られています。当時、大変な貴重品であったと考えられます。なぜ、この遺跡から出土したのかはわかりませんが、唐三彩を入手できるだけの力を持った豪族がこの付近に住んでいたと考えられます。

唐三彩や同じ住居跡から出土した遺物は、平成17年に県重要文化財に指定されています。



唐三彩が出土した住居



唐三彩陶枕

すいとうさんどうじき 推定東山道駿路

■ 時代 飛鳥～平安時代

■ 位置 太田市北部

■ 調査期間 平成2年～

■ 概要

東山道駿路は、古代（飛鳥～平安時代）に都と東国を結んでいた道です。

駿路には16kmごとに宿泊や休憩の施設である駿宿が置かれました。駿と駿を結んでいたことから駿路と呼ばれています。近年の発掘調査により全国各地で古代道路が発見され、幅10m前後もある大きな道が全国に造られていたことがわかつてきました。

太田市では、近年の発掘調査によって、東山道駿路が通過していた場所がわかつてきました。これらはそれぞれ「牛堀・矢ノ原ルート」「下新田ルート」「東山道武藏路」と呼ばれています。遺物がほとんど出土しないため、年代は明らかではありませんが、他の遺跡の調査成果などから、7世紀後半から9世紀（今から1300～1200年前）に利用された道と考えられています。



牛堀・矢ノ原ルート（下原宿遺跡）



下新田ルート（下新田遺跡）

まえうつぐいせき 前六供遺跡

■ 時代 古墳時代前期～中世

■ 位置 新田上田中町

■ 調査期間 平成10年

■ 概要

前六供遺跡は、石川左岸の低台地に立地しています。県道拡幅工事に伴う事前調査で発掘され、古墳時代前期から中世の遺構が発見されています。平安時代の3号井戸は、直径が240cm、深さ140cmの当時としては大きな井戸で、底面には木の枠が井の字に組まれていました。井戸の中からは、木簡などの貴重な遺物が出土しました。木簡は「貞觀九年（867）」に物品が収められ、「目代天福」と「權目代壬生□□」がこれを証明したことが書かれています。群馬県内では、年号が書かれた木簡はこれまで出土しておらず、当時の物品を納めた様子や当時の人名を知ることができる大変貴重な資料です。木簡や井戸から出土した資料は、平成17年に県重要文化財に指定されています。



木簡が出土した井戸

川向・中西田遺跡

■ 時代 古墳時代～中世

■ 位置 内ヶ島町、龍舞町

■ 調査期間 平成3年、平成26年

■ 概要

渡良瀬川扇状地の南西部に接した台地上に立地し、古代の山田郡と新田郡の境界付近に位置しています。古墳時代には10軒程度のムラでしたが、奈良・平安時代になると100軒以上と住居の軒数が急激に増加していることがわかりました。これは奈良・平安時代に条里制という大規模な耕地整理を行った結果、大きなムラに拡大したと考えられます。

出土品としては、「蘭田」と刻印された平瓦のほか、古代の役人の帶に着けてされていた巡方や石帶といった飾りが出土したことが注目されています。



「蘭田」と刻印された平瓦

小角田下遺跡

■ 時代 平安時代

■ 位置 小角田町

■ 調査期間 昭和63年

■ 概要

小角田下遺跡は、大間々扇状地扇端の低台地上に立地しています。県道太田境線の工事に伴う事前調査で発掘され、平安時代の竪穴住居5軒、井戸などが発見されました。

平安時代の3基の井戸では、木製の井戸枠が残されていました。井戸枠は腐ってしまうことが多く、ほとんど残っていませんが、この遺跡では、3基の井戸枠が当時のまま残っていたことが注目されます。また、井戸の西側にある溝から、この時代の土器の外側に文字が書かれた墨書き器が多く出土しています。



井戸枠の残った井戸

長福寺遺跡

■ 時代 古墳時代～中世

■ 位置 下田島町

■ 調査期間 平成 16 年

■ 概要

長福寺遺跡は、木崎団地の東端に立地しています。店舗の建設に伴う事前調査で発掘され、古墳時代から平安時代の竪穴住居などが確認されました。

遺跡の東部では、基壇建物跡 1 棟が発見されました。この建物は 7.6×7.5 m の大きさで、瓦が使用されたことから、ムラの中に造られたお堂の跡と考えられます。時期は 9 世紀～10 世紀と推定され、この時代に地方の村でもお寺が造られ、仏教が信仰されていたことがわかります。



基壇建物跡

岩松千歳 2 遺跡

■ 時代 古墳時代～近世

■ 位置 岩松町

■ 調査期間 平成 16～17 年

■ 概要

岩松千歳 2 遺跡は、尾島台地の東端部に立地しています。調整池の造成に伴う事前調査で発掘され、平安時代の竪穴住居 81 軒、平安時代から近世の井戸や土坑などが発見されました。

平安時代のムラは、9 世紀から 11 世紀まで継続して営まれ、縁釉陶器や灰釉陶器などの釉薬が付いた陶器が多く出土していることから、当時としては裕福なムラだったと考えられます。また、当時の東北地方に多く見られる長煙道型カマドと言う、煙道が非常に長いカマドを持つ住居が多く確認されています。



遺跡全景（東から撮影）

中世の遺跡

中世は、鎌倉時代から安土桃山時代までのおよそ400年間のことと指します。

平安時代末期に、新田氏の祖となる新田義重により新田荘の開発がすすめられ、鎌倉時代には新田氏一族は新田郡全域に勢力を拡大します。一族は新田荘内の各地に館を構え、それぞれの郷村名を名乗り、仏教を受容しながら円福寺、長楽寺などの寺院を建立しました。新田（徳川）義季により創建された長楽寺は、鎌倉時代から室町時代にかけて大いに発展し、その門前町として世良田宿が形成されました。



鎌倉時代末に後醍醐天皇の編旨を受け、生品神社で挙兵した新田義貞は、鎌倉幕府を倒し建武の中興のきっかけを作りました。その後、光厳上皇を擁立し、新政権から離反した足利尊氏らと対立し、南北二つの朝廷が並立します。義貞を中心とする新田氏一族の多くは南朝方に立ち全国各地を転戦しましたが、その多くは敗死しました。それにより太田地域の多くは北朝方に立った岩松氏（足利義純を父・新田義兼の娘を母とする岩松時金を祖とする）の所領となりました。室町時代に起きた東国の戦乱により岩松氏は二派に分裂しますが、岩松家純は金山城を築城し、岩松氏一族の統合を図ります。戦国時代になると下克上で家臣の横瀬氏が城主となり、その後は後北条氏の支配下となりました。豊臣氏により後北条氏が滅ぼされると金山城は廃城となり、太田地方の中世は幕を閉じます。

新田荘遺跡

■ 時代 中世

■ 位置 太田市内

■ 概要

「新田荘」は、平安時代末期の12世紀中ごろに新田氏が拓いた荘園です。源義国の子新田義重は、旧新田郡南西部の早川流域・石田川流域を再開発して19の郷（村）を支配下に置きました。義重はその後さらに37の郷を開発し、旧新田郡のほぼ全域と旧太田市の南西部を荘園化しました。

新田荘遺跡は、広域に存在する「新田荘」に関連する寺社境内（円福寺境内・十二所神社境内・生品神社境内・総持寺境内・長楽寺境内・東照宮境内・明王院境内）・館跡（反町館跡・江田館跡）・湧水地（矢太神水源・重殿水源）など11の中世遺跡を「荘園」として面的にとらえ、平成12年に国史跡に指定されました。



円福寺境内（新田氏累代の墓）



生品神社境内



明王院境内



長楽寺境内



反町館跡



矢太神水源

かなやまじょうせき 金山城跡

■ 時代 室町時代～安土桃山時代

■ 位置 金山町

■ 調査期間

■ 概要

金山城は独立丘陵となる金山（標高 239m）の四方にのびる尾根を利用して造られた山城です。山頂部の実城を中心として北には北城、西には西城、南には八王子山ノ砦などが配置されています。

金山城は文明元年（1469）に新田氏の後裔、岩松家純の命により築造されたことに始まったと考えられています。最初に城主となった岩松氏は下克上によって横瀬氏（のちに「由良」と改姓）と交代し、その後北条氏の支配下となりましたが、豊臣秀吉による小田原攻めによる北条氏の敗北により天正 18 年（1590）に廃城となりました。



金山城大手虎口

城ノ内遺跡

■ 時代 古墳時代中・後期、中世

■ 位置 大島町

■ 調査期間 平成 22 年

■ 概要

城之内遺跡は金山の南西に立地しています。太田病院の移転に伴う事前調査として発掘が行われ、古墳時代中期から後期にかけての集落、戦国時代に金山城の出城であった大島城に関連する堀や掘立柱建物跡などが発見されました。

大島城については古い記録は残っておらず、城主はよくわかつていません。城の縄張図が示されているのみで、建物配置など不明な部分も多かったのですが、この調査で、大島城の西端の一部ではありますが、建物配置やその変遷を知ることができたのは大きな成果でした。



遺跡全景（南側上空から）

上新田遺跡

■ 時代 中世

■ 位置 世良田町

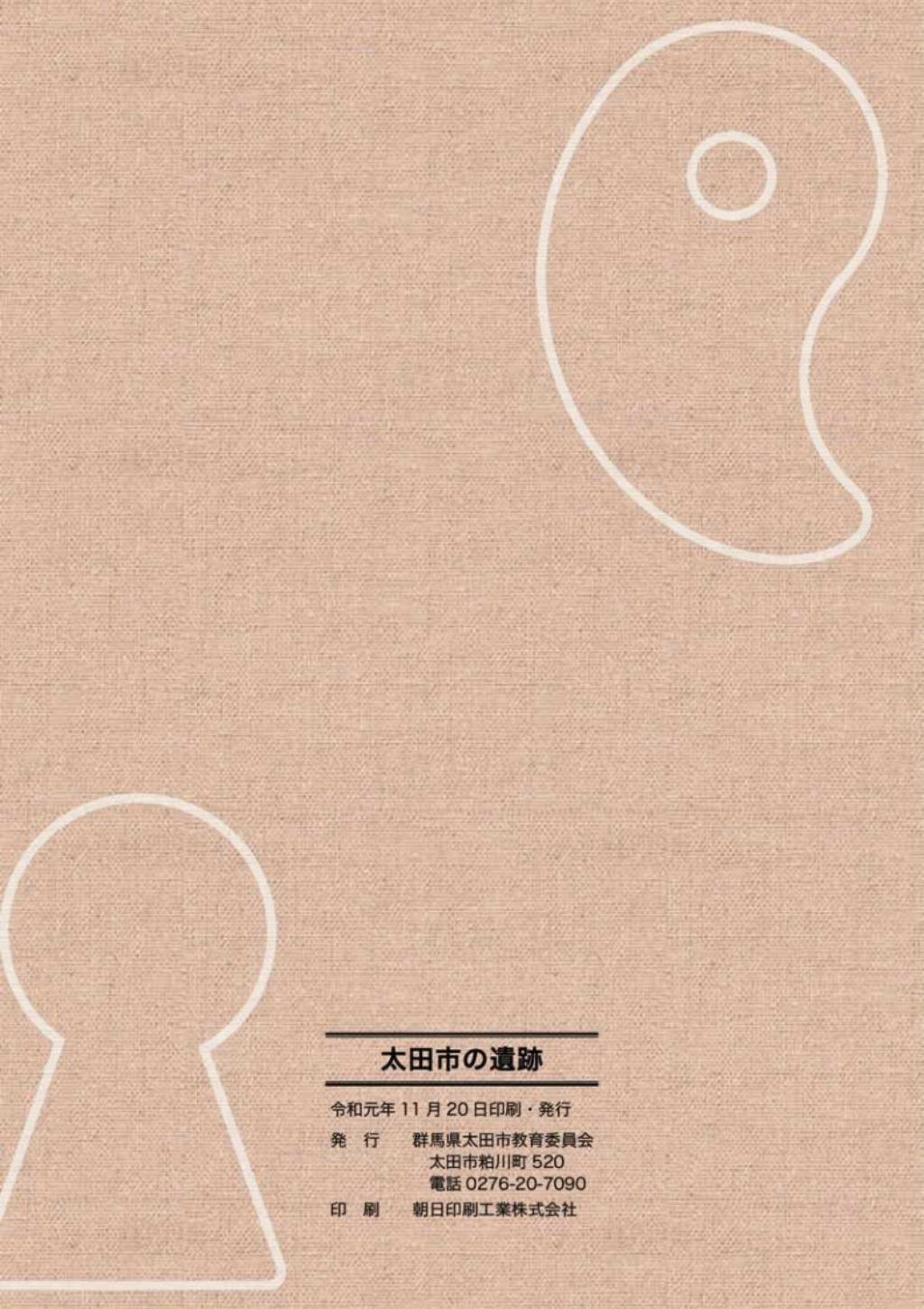
■ 調査期間 平成 24 年

■ 概要

上新田遺跡は世良田の集落の北西隅に立地します。ほ場整備に伴う事前調査として発掘が行われ、中世を中心とした溝や井戸などが発見されました。近年の調査で、中世の世良田は堀によって囲まれていた環濠集落であることがわかつてきています。発掘調査では環濠集落の北辺の堀跡が確認され、幅は 5m にもなる大きなものであることがわかりました。また、この堀は西側を流れる早川まで続いていることが確認され、早川から環濠集落の堀に水を引き込んでいたことが判明したことは大きな成果となりました。



環濠集落北辺の溝



太田市の遺跡

令和元年 11月 20日印刷・発行

発 行 群馬県太田市教育委員会

太田市柏川町 520

電話 0276-20-7090

印 刷 朝日印刷工業株式会社